



年 組 名前

道新ワークシート

真っ白ふわふわ 雪深いまちにイメージ重ね

挑戦3年 綿花ニセコで露地栽培

高橋農園 ピアスなどに加工、販売へ

【ニセコ】後志管内ニセコ町の高橋農園が、寒冷地では難しい綿花の露地栽培に北海道内の農家として初めて成功した。メロンの栽培技術を活用し、挑戦3年目で成果を上げた。高橋農園が創業100年を迎える来年、綿花を使ったアクセサリーなどを発売し、ニセコの新たなブランドとして育てていく考えだ。

1926年(大正15年) 農閑期に加工ができる綿創業の高橋農園は現在、花に注目した。高橋農園4代目の高橋悠太さん(43)と妻の優里さん(41)が、6秒でメロンやジャガイモの生産・販売を手がけている。

2人は「一年を通して農業に携わりたい」と、

とも決め手となった。

綿花は熱帯・亜熱帯の植物で、苗の定植期に一定温度を保つ必要があるなど寒冷地には適さず、露地栽培の北限は宮城県とされてきた。自給率は0.1%で、国内では兵庫県や奈良県などで栽培されている。

2人は2022年に宮

城県の栽培現場を視察。23年にビニールハウスで



①綿花の露地栽培の成功を喜ぶ高橋さん夫妻

②10月20日、ニセコ町宮田コットのイヤリング。普段は廃棄される割れ米も使っている(高橋農園提供)

約40株、露地で約80株の栽培からスタートした。ハウスは2年連続で実をつけたものの、露地は水や温度の管理が難しく結実しなかった。

今年は苗を畑に移した後の成長期に、メロン栽培で使っているチューブで十分な水分を直接根に与えたところ、植えた200株は1株あたり30個ほどの実をつけた。10月末、黒い実から出た真っ白でふわふわの綿花を収穫した悠太さんは「3年間の試行錯誤がようやく実を結んだ」と笑顔を見せた。

来年の栽培面積は今年の2㌥から約5倍に拡大し、約千株を育てる予定。

綿花は「NISEKO SNOW COTTON

(ニセコ・スノー・コットン)」と名付け、商標登録を出願中だ。町内の事業者と連携し、綿花の枝や幹を活用したディフューザー(アロマオイル芳香器)や、綿をアレン

ジしたピアスなどを制作中で、来年から町内5店舗で販売する。優里さん

は「ニセコを綿花で盛り上げたい」と意気込んでいる。

(小林彩乃)



道新でワークシート

年 組 名前

(1) 綿花はどのような自然条件の下で栽培されますか、記事を参考に書きなさい。

(2) メロンやジャガイモを手がける高橋農園で、綿花の栽培を始めた理由を、
記事を参考に書きなさい。

(3) 高橋農園が挑戦3年目で成果を上げることができたのは、メロンの栽培
技術をどのように応用したからですか、記事を参考に書きなさい。